

# かささぎ



北京日本人学校  
学校通信 7号  
平成28年11月28日  
校長 奥田 修也

## 生きているということは

北京日本人学校教頭 高橋 勝

北京日本人学校創立40周年記念式典を、今月1日、本校体育館にて開催いたしました。当日は在中国日本国大使館特命全権大使の横井裕様をはじめ、日頃からお世話になっている皆様をお招きし、お祝いの言葉を頂戴しました。式典は中学生の合唱に始まり、小学生が学校の歩みを紹介するなど、ささやかですが温かみのある催しとなりました。記念品やリーフレットなども、子どもたちのアイデアから生まれ、手作り感のある取組になったと感じています。そして、この学校の一員であることの自覚と誇りを、堂々と発表してくれた代表児童生徒の言葉は、何よりも心に残りました。記念誌にご寄稿いただいた皆様の思いと重なり、この学校の伝統の重みをあらためて感じる一日となりました。



記念誌のページをめくっていると、開校してからの40年間、特にこの10年の道のりが平坦ではなかったことに気付かされます。新型インフルエンザの流行、抗日運動の激化、急激に進んだ大気汚染の問題等々、その時々で当時の運営理事会・父母会・学校が連携し、知恵をしばり汗をかいて課題解決に取り組んでいました。そうした陰の努力が実を結び、子どもたちが楽しく充実した学校生活を送り、今に至っていることがわかります。

同窓生のお二人の寄稿文からは、愛校の思いがひしひしと伝わってきました。辻さんは本校を離れ30年近くを経てから保護者としてお戻りになり、今は図書ボランティアなどをおして学校を支えています。

小松さんも、一昨年度より運動会などの学生ボランティアとして本校を支えてくれました。彼が声をかけて集まった他の同窓生たちも、誰もが気持ちよく後輩のために力を貸してくれています。彼らは北京日本倶楽部の一員としても様々なイベントをサポートし、日中友好行事を支える貴重な戦力となっています。

さて、近年のグローバル化の流れにおいて、海外の日本人学校等で学ぶ子どもたちは、将来のグローバル人材の「金の卵」だとみられています。本校も上記のような先輩たちに続くグローバルな感覚を持った人材を育成し続けていくため、現地校や地域社会等との交流を中心に取組を行っています。

小学部低学年はフランス人学校やドイツ人学校とドッジボール大会、高学年は韓国入学校と姉妹校提携を結んだ交流活動、中学部も日本語を第一外国語として学習している月壇中学と弁論大会を開催しています。そして、これまで交流先を模索していた小学部中学年も、今年から3e国際学校や北師大実験小学と交流を始めることになりました。日中関係が冷え込んで以来、現地校との交流が難しくなっていますが、今後は徐々に修復していければと考えています。

本校は日本文化の発信拠点としても、日本式教育のモデルを積極的に公開しています。現地校教員に授業を公開するだけでなく運動会に招待したり、現地大学の教育実習生を受け入れたりもしてきました。先日は教員有志が市内の民工学校に出かけ、避難訓練の出前授業を行いました。子どもたちだけでなく、教える側の私たちも海外生活の得がたい経験を力に変えるため、ときには休日を返上して交流活動に努めています。こうした取組の成果を、日々子どもたちへの指導に還元できたらと思います。

平成8年に本校で特別授業をされた作家・永六輔氏は、「生きているということは 誰かに借りをつくること 生きてゆくということは その借りを返してゆくこと」という言葉を色紙に残されました。節目の年を迎えた今、この7月に永眠された氏の思いをあらためて受け止め、グローバル人材育成の第一歩にしたいと考える次第です。



## 修学旅行を終えて

## 小学部6年

西安にしては珍しく小雨が続きましたが、日程を入れ替えながら全行程を終えることができました。どの子も、友達と3日間過ごせることのうれしさとワクワクしながら出発。人気だったのは、明の城壁でのサイクリングです。少し大きめの自転車と格闘しながらも、約14kmの城壁をグループの仲間と楽しく一周しました。城壁の内と外の景色の違いや、幅の広さにも驚いていました。回民街では、お店の人と交渉しながら楽しく買い物をし、食事では、餃子宴やビャンビャン麺などの西安料理を味わうことができました。

事前学習で調べて行きましたが、やはり「百聞は一見に如かず」です。大雁塔や圧倒的な数の等身大の兵馬俑にも、中国のスケールの大きさと歴史の深さを感じていました。

実行委員を中心に準備を進め、西安では、自分たちで考えて規律のある行動をし、一回り成長した姿を見ることができました。卒業までの残りの日々を、小学部最高学年として、より充実したものになるよう見守ってきたいと思います。



## 宿泊学習 in 天津

## 小学部5年

10月13日(木)から14日(金)にかけて、天津に宿泊学習に行ってきました。

### 【目標】

- く...組体操の時のように協力しよう
- る...ルールを守ろう
- ま...学ぼう 車の知識

### 1日目

トヨタ自動車工場で車の製造ラインを見せていただきました。ロボットや機械などを使い、安全に、そして正確に作業を行っていました。また、よりよい自

動車を効率よくつくるための工夫がたくさんあり、日本人の技術力の高さも知りました。

夜はホテルで中華バイキング。おいしくてついつい食べ過ぎてしまいました。

### 2日目

書道で有名な天津の「瑞景小学校」と書道を通して交流しました。筆の持ち方や文字の書き方が、日本と中国では違うところがたくさんあり、興味深かったです。帰りにプレゼントを交換しました。私たちは折り紙で作った作品を、瑞景小学校からは手作りのしおりをいただきました。初めはなかなか話しかけることができなかつた子どもたちでしたが、お別れの時間が近づくにつれて仲良くなっていました。

この2日間で、集団行動の大切さも学びました。人に頼るのではなく、自分で考え、自分で調べ、自ら行動に移すことができるようになりました。この学びや経験を生かし、6年生に向けてさらに成長できるよう見守ってきたいと思います。



## リーダー交代レクについて

## 特活部

10月28日(金)に発足した生徒会本部の初仕事、リーダー交代レクが11月8日(火)に行われました。およその企画を前期役員が作り、新役員が引き継いでいくという毎年恒例の行事です。

昨年の反省から、①新リーダーである2年生が班員をまとめる時間を持つ、②全員が楽しめるような内容にする、ということで計画された「3年生当てクイズ」でした。写真や問題をプロジェクターに映してわかりやすくするなど工夫をしてみました。が、不慣れなこともあり、時間配分や問題の不足と偏りがあった点に反省が残ったようです。

この経験を生かしてこれから開催される中学部初の文化祭に向けて頑張ろう！と決意を新たにしている生徒会役員に、応援をよろしくお願ひします。

